

令和5年度 長寿の里・十四山 事業報告

【令和5年度重点目標】

1. 人材の確保と人材育成のための環境整備
2. 安心、安全な利用者サービスの提供
3. 危機管理システムの強化充実
4. 施設・設備の更新・改善
5. 地域貢献事業の展開

【各部門事業実績】

〈各部門共通事項〉

1. 危機管理システムの強化充実

- ・施設内各事業所の実態精査と非常事態下での綿密な想定を行い、災害や新興感染症発生時に係るBCP（事業継続計画）を策定のうえ、一部訓練を実施しました。今後、有事の際に全職員が計画に基づいた行動をとれるよう、計画の周知徹底に留まらず、実践的な研修や訓練の実施継続に努めます。また、地域における防災拠点として、地域との共同訓練実施等を通じて危機管理体制構築のための連携強化を推進します。

2. 施設設備の更新と環境改善

- ・老朽化に伴う機能低下が進んでいた施設内の一部空調設備や照明設備の更新を実施することで利用者および職員双方の環境改善に努めました。

〈特別養護老人ホーム〉

1. ユニットケアの推進

- ・入所前の適切なアセスメントや各専門職による意見交換および情報共有を通じて、本人や家族からの要望を可能な限り実現できる体制を整えました。また、入所後は専門職間の連携による定期的なサービス見直しと改善により入所者本位のユニットケア実施に努めました。

2. 人材育成

- ・OJTや各種会議体を利用した施設内研修に加え、オンラインを活用した外部研修を積極的に活用し、多様な方法で研修参加を促しました。
- ・入所者の安心安全な生活を支えるため、基本的介護技術の他、虐待防止、身体拘束適正化、感染症予防や事故防止に係る研修に重点を置き、対応方法の再周知と職員同士が考える機会（カンファレンス）を随時実施可能な環境整備により意識向上を図りました。

3. 地域連携と地域貢献

- ・感染症対策の観点から活動を制限していた、地域交流やボランティア等の受け入れを再開・拡大しました。地域での外出レクリエーションの実施や実習生の受け入れも再開しました。また、コロナ禍以降初めてとなる家族参加型の夏祭りを開催することで、利用者と家族の関りを大切にしながら、地域ボランティアの参加を広く周知し募ることで、地域社会との連携強化にも注力しました。

〈ショートステイ〉

1. 適切な介護サービスの提供

- ・利用者家族、ケアマネージャーや医療機関との連携を通じて、利用者の在宅における生活環境や医療面を含めた心身状況の情報を共有し、利用者が希望する環境を尊重しながら適切なサービス提供に努めました。
- ・施設内研修に加え、オンラインも活用しながら外部機関開催の研修へ積極的に参加することでエンパワーメントを図り、参加者自らが介護現場へのフィードバックや課題解決を迫ることで、新たな知見の習得とサービス品質向上に努めました。

2. 利用者と職員の安全への取り組み

- ・安心安全なサービス提供の一環として、緊急時であっても利用者受入時には詳細な情報収集に努め、利用中は事故の危険予測や体調面での変化に配慮しながら、必要に応じて家族や医療機関との連携を図りました。また、ヒヤリハットや事故発生時には担当職員のみならず、多職種や委員会を通じて原因と対策を検討し、同対策の再評価実施により再発防止に努めました。

3. 円滑なサービス提供体制の確保

- ・法人内外の各事業所との情報共有や連絡調整を、日頃から密に行うことで、利用者の健康状態や主介護者を起因とする逼迫した問題に対しても、積極的かつ円滑なサービスを提供しました。

〈デイサービス〉

1. 利用者に応じた自立支援の提供

- ・アンケート調査の実施と併せて写真や動画も活用しながら在宅で必要な心身機能と利用者ニーズの把握強化に努めました。
- ・利用者の在宅環境と心身能力に合わせた自立支援に重点を置き、収集した情報を基に日常生活に必要な動作を機能訓練に取り入れ、心身機能の維持向上につなげました。また、心身能力状態を可視化するため、体力測定を実施し、結果を家族やケアマネージャーと情報を共有することで、状態の正確な

把握と変化の早期発見に努めました。

2. 職員の資質向上

- ・施設内研修では、会議体を活用した研修に加え、個別研修や少人数でのテーマ別研修を繰り返し実施することで、各職員の介護技術水準に応じた研修の実施に努めました。
- ・経験の浅い職員でも安心安全なサービスを提供できるよう、各種マニュアルを見直し、統一的なケアを推進しました。また、評価表を基に職員の業務習得状況を把握し、個別フォローによる職員の資質向上に取り組みました。

3. 法人内外との連携強化

- ・法人内関係部署間でサービス改善を目的とした会議体の開催を通じて、サービス改善策等の情報共有を密に行い連携を深めサービス品質の向上に努めました。
- ・感染症対策により一部制限していたイベントや地域ボランティア等との連携を再開し、体操教室や音楽療法等の各種レクリエーションを再開することで、サービス品質の向上と地域連携強化に努めました。

〈居宅介護支援〉

1. 利用者の自立と自己実現支援

- ・地域連絡会や各種会議への積極的な参加により、地域福祉ニーズの把握に努めると同時に、利用者や家族の個別課題解決に必要なケアプランを、寄り添いながらも迅速に作成することで、円滑な支援実施に努めました。また、プラン作成後もプライバシー保護や感染症対策にも配慮しながら、安心して相談できる環境づくりを行いました。

2. 地域の関係機関との連携強化

- ・地域における認知症推進員として、行政や地域の専門家と連携し、認知症施策に対する提案を通じて、認知症の方が住み慣れた地域で継続的に暮らすためのサポートを実施しました。

3. 職員の資質向上

- ・施設内外の研修へ積極的な参加により利用者自立支援に必要な知識の習得に努めました。また、事業所内の連携を密にし主担当者不在時にも円滑な対応ができるよう、効率的な情報共有を実施するためのツールを作成し活用しました。